

避難の際の心得

避難先・避難ルートを確認する

浸水に対して安全な避難先とルートを平時から家族や地域で確認しておきましょう。避難先は必ずしも市が準備した避難場所である必要はありません。安全な親戚宅、知人宅、職場なども避難先の選択肢になり得ます。



避難の方法を確認する

自家用車での避難は、道路冠水や交通渋滞に巻き込まれる可能性もありますのでやめましょう。どうしても自家用車での避難をしたい場合は、さらに早めの避難開始が重要です。

避難は原則として、市指定の避難場所や安全な場所（親戚宅や知人宅）への「立ち退き避難（水平避難）」です。ただし、道路の状況や降雨の状況によっては、住宅の2階部分など建物内のより安全な場所へ「垂直避難」をしましょう。

立ち退き避難

- その場を立ち退き、近隣の少しでも安全な場所や避難場所等に避難すること。



水平避難ともいいます！



垂直避難

- 2階以上に避難すること（屋内安全確保）。
- 住宅の2階部分でも場所によっては、危ない時もあります。



避難とは 難を避けること、安全を確保することです。
安全な場所にいる人は、避難する必要はありません。

避難に際して心がけること

実際に避難する際には、以下の点に心がけましょう。

早めの避難

- 浸水してからの避難は危険です。降雨や河川水位などの情報をもとに、身の危険を感じたら避難勧告を待たずに自主的に避難を開始してください。

ご近所への声かけ

- 単独での避難は、思わぬ事態が起きた時に危険です。避難する前に隣近所に声をかけ、集団での避難を心がけましょう。

豪雨時の避難

- 豪雨時の屋外避難は危険です。車の移動も控えましょう。

避難する際（やむなく浸水の中を歩く時）の注意

- 避難するときの荷物は必要最低限としましょう。



- 長靴や裸足は禁止です。運動靴をはきましょう。



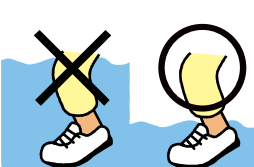
- 動きやすい服装で、2人以上での行動を心掛けましょう。



- 高齢者や身体の不自由な人などは背負って避難しましょう。



- 歩ける深さは、膝下までです。水深があるようなら高いところで救助を待ちましょう。



- 長い棒を杖代わりにして、水の中の障害物に注意しましょう。

